

式辞

札幌保健医療大学保健医療学部看護学科三期生一〇一名の皆さん、ご卒業、おめでとうございます。ご家族、保護者の皆さまには、本学教職員一同を代表して心よりお祝い申し上げます。

また、本日ご臨席を賜りましたご来賓の皆さまには、さまざまな形で本学をご支援頂きましたことに、厚く御礼申し上げます。

平成二十五年度に、学校法人吉田学園 札幌保健医療大学として開学して以来、ここに看護学科三期生の卒業式・学位授与式を迎えられますことを教職員一同の大きな喜びとするところです。本学教職員は皆さんが入学した日から、一日一日、一年一年、学生の皆さんと真摯に向き合い、将来、私たちの仲間となる看護師・保健師を育てることに専心する日々でした。この間、皆さんは看護学科の仲間たちだけでなく、二年前に新設した栄養学科の後輩たちとも札幌保健医療大学で共に学ぶ仲間として受け入れ、先輩・後輩の関係をいとも簡単に創り上げ、私たち教職員の心配を払拭してくれました。先輩たちの思いを引き継ぎ、本学の伝統を自分たちの手で創る気概に満ち、課外活動や学校行事などの活動を通して、仲間同士の交流と支え合いを大切にし、本学の教育理念である「人間力」を遺憾なく発揮してくれました。皆さんが授業や課外活動で培った四つの人間力、すなわち、他者の心に寄り添う

「豊かな感性」、常に真理と善を追求し、公共の使命と責任を果たす「高潔な精神」、人としての道理に適った判断をもたらす「確かな知力」、そして「他者との共存」は、看護実践力を学修し向上させるに不可欠な資質です。皆さんの優れた人間力は、これから社会人として、専門職業人としてさまざまな環境に身を置き、適応していくこと、成長していくことを予感させるもので、頼もしくもあり、また誇りとするところで、皆さんが芽吹かせた本学の伝統は、看護学科に止まらず、栄養学科の仲間にも広がり、札幌保健医療大学に深く根を張り、確実に受け継がれています。

いま、晴れて札幌保健医療大学を卒業し、一社会人として、これから歩み始める道は、必ずしも平坦で、穏やかな道のりとはいえず、初めて出会う出来事に戸惑い、困難さを感じることもあると思います。しかし、そのような出来事に遭遇したとき、恐れたり、落ち込んだり、絶望したりすることはありません。皆さんのこれからの人生で出会うであろういくつもの出来事は、本学で培った「人間力」を発揮するチャンスであり、成長への転機であるからです。何もない、悩まない人生はありません。悩み迷うその時、考えて下さい。自分は何をしたのか、どんな生き方が自分らしいのか、どんな解決方法が自分を最も活かすことなのか、を。そして、時間の経過を味方にして、すこしずつ乗り越えられるよう、自分を奮い立たせて下さい。人は、困難を乗り越えようとするとき、未知の自分に出会い、見識と自信を深め、新しい自己へと変化していくのです。それでも、悩み苦しい時、しっかりと顔を上げ、自分

の周りを見渡して下さい。皆さんの周りには、家族や友人、同僚や上司などがいます。皆さんは、助けを必要とする時に助けを求めることの大切さも看護実習や大学生活の中で学んできています。同時に、札幌保健医療大学という母校があることを思い出して下さい。母校は、皆さんの原点であり、ホームなのです。いつでも皆さんを受け入れ、全力で支援する教職員たちがいることを忘れないで下さい。

さて、卒業生の皆さんが進もうとしている今日の保健医療福祉は、誰もが平等に願っている健康で幸福な暮らしに全面的に応えているとは言い難い現状にあります。我が国は、世界の中でも類まれな速さで少子高齢化社会を迎え、なかでも北海道の現状は厳しく、道民の健康生活を守るべき保健医療福祉の環境は深刻な状況にあります。北海道の人口は大都市とその周辺に集中し、地方は過疎によって医師、看護師・保健師などの保健医療従事者の不足を招き、保健医療福祉サービスが崩壊しかねない危機にあります。地方の高齢者や子どもたちなど、誰もが健康であって、安心して暮らしていける地域創りは北海道の緊急課題となっています。札幌保健医療大学は、北海道の保健医療福祉に貢献することを使命にして開学しました。全国に、そして北海道に住む全ての人々に「ふるさと」があり、その「ふるさと」は誰にとっても特別な場所なのです。皆さんがこれから活躍する保健医療福祉の現場から、そこに住む人々にとっての特別な地域「ふるさと」を守る、看護師・保健師であってほしいと願っています。

本日、皆さんの大学生活の最後に、司馬遼太郎の「名こそ惜しけれ」を送る言葉としたいと思います。「名こそ惜しけれ」は、七百年にわたり日本人が培ってきた「私利私欲を恥とした精神」のもとで、「己を律し、他者を大切にする」という日本人の精神文化・倫理観の原点であり、この精神性は、今も引き継がれています。例えば、戦後の高度経済成長や、最も身近な出来事として昨年の北海道胆振東部地震があります。古くから日本で多発している自然災害を乗り越えようと、ひたすら誠実に復興に励む日本人の強靱な精神、忍耐力、協働力として今の私たちに引き継がれているのです。また、たった今、一人ひとり読み上げた皆さんの名前は、ご家族が皆さんを大切に思い、願いを込めたものであり、皆さんが唯一無二の存在であることの証です。「名こそ惜しけれ」には、自分自身の「名を辱め（はずかしめ）ない」よう、己を律し、他者のために、社会のために尽くそうとする行いを尊ぶことであり、こうした行いは自分自身をも尊び、大切にするとという意味が込められています。「名こそ惜しけれ」は、人としての「徳」と「義」の精神を重んじることであり、本学の教育理念である「人間力」と相通ずるものです。

これらの言葉を胸に刻み、社会人として、看護専門職業人として、それぞれに与えられた場で、それぞれの夢に向かって、自分の可能性を開拓し、自分らしくある生き方に出会い、社会に貢献できる人、社会から必要とされる人として活躍していくことを、心から願っております。

最後に、卒業生の皆さんを今日の晴れの日まで慈しみ見守

つて下さったご家族の労をねぎらうとともに、本学教育に惜しめないご支援、ご指導を頂いた関係者の皆さまに重ねて感謝申し上げます。

平成三十一年三月十二日

学長 稲葉 佳江